

「未来をともに生きるためのSDGs」をテーマに、 オンライン文化講演会が行われました

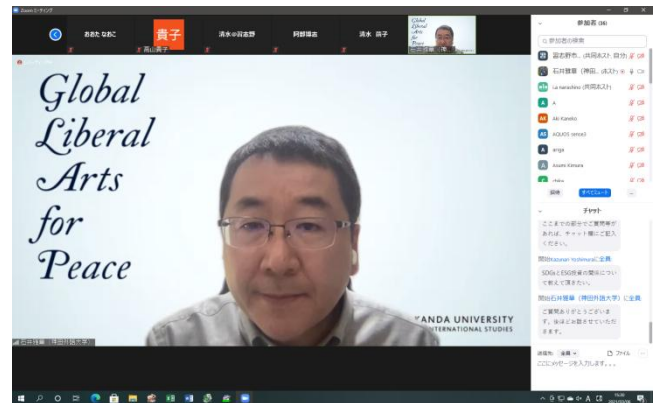
野中泰子(国際交流部会)

3月6日(土)に習志野市国際交流協会文化交流部会主催でオンライン文化講演会が行われました。テーマは「未来をともに生きるためのSDGs」、講師は石井雅章さん(神田外語大学言語メディア教育センター長・准教授)でした。

SDGs(エスディーゼズ)とは2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」の略称で、2030年を見据えて国連加盟国が取り組んでいる活動です。最近よく耳にするものの、その中身については漠然としていて身近に感じにくかったテーマです。

印象的だったのは、誰も悪い世界を作るつもりはないはずなのに持続不可能な世界になっていること。その現状の打破のためには、世の中の仕組みそのものの形を変えて行かなくてはならないこと。それを加盟国全体が認識し、国連決議で初めての「全会一致」で採択された経緯があることでした。

またSDGsは、現状を改善しながら2030年にどういう世界になっているか、ではなく、2030年に世界があるべき姿を示し、それが持続可能であることを目標に、今何をするか、という時間設定が特徴です。いかに加盟国が地球の将来に危機を感じているかがよくわか

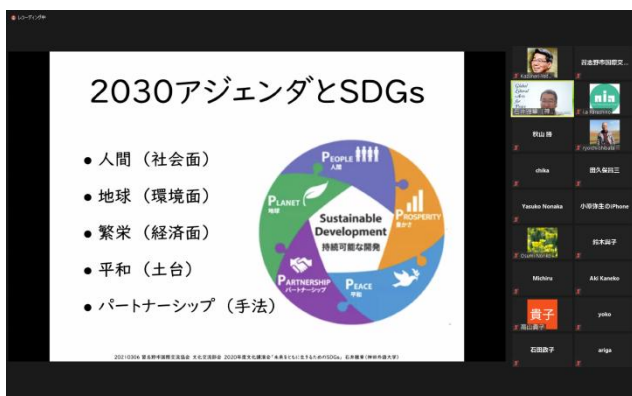


講師の石井雅章さん

りました。そして、具体的に持続可能な世界とは何か、その実現のためには歴史上人類が実現したことのない「持続可能な環境・社会・繁栄」と「平和」が何より必要で、人類は知恵を絞らないといけない現実を今回学びました。採択から5年が経過した今、国連、国、自治体、企業などがどのような目標設定の下で活動をして、それをどのように記録し開示しているのか、その努力や成果と同時に注意点をすることもできました。人類が心身共にゆたかで、地球環境を守りながら繁栄していく世界を目指すために何ができるかのイメージが具体的になったように感じました。

石井さんは、SDGsを自分のこととして理解し生活の中に取り込んで行く道筋を示すなど、グラフやイラストもたくさん使って終始わかりやすい説明をしてくださいました。コロナ禍でもこのような興味深い講演会に参加できたことを嬉しく思います。

後半に参加者がグループに分かれて交流する機会があり、そこで老若男女多様な参加者がいるとわかりました。いつか対面で参加者全員が交流しながらSDGsを「自分ごと」として学ぶ機会があることを願っています。



オンライン画面の一部